

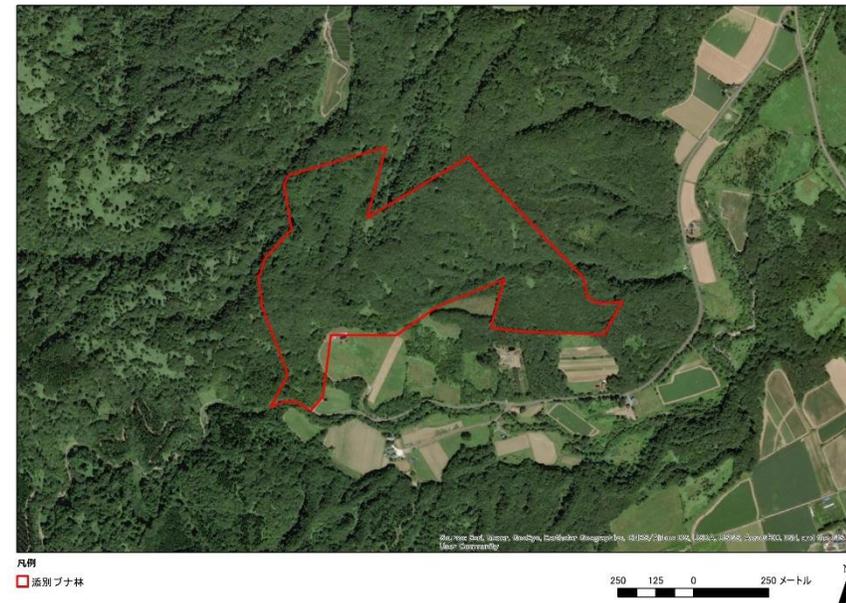
場所・面積

1:北海道寿都郡黒松内町	(120,930㎡)	
2:北海道寿都郡黒松内町	(140,599㎡)	
3:北海道寿都郡黒松内町	(110,349㎡)	
4:北海道寿都郡黒松内町	(63,828㎡)	
5:北海道寿都郡黒松内町	(73,131㎡)	合計 51 ha

管理目的

本エリアは約100年前に皆伐された民有林だが、その後ブナが一斉更新し、ブナ林として自然再生している。このような林分は他に例がないため、町が購入し公有地化する事で保全に取り組んでいる。また、散策路を設け地元住民の散策や教育機関の教育・研究活動等に供している。

更に、これらの活動を支援するため、エリア隣接地に宿泊可能な「ミニ・ビジターセンター」を町が建設し、指定管理者が管理運営している。



サイト概要

ブナ北限地帯の黒松内低地帯では昭和3年の天然記念物指定に先立つ現地調査報告書（新島善直：大正12年（1923））に「周囲はほとんど全く開墾されつくされた土地中にかくのごときぶなの原始林を残存せるは奇跡というべし。」との記載があるように、当時すでに大半の原生的なブナ林は伐採されていた。本ブナ林は100年間かけてブナ二次林が再生したことを体感する事のできる貴重な林分である。

土地利用の変遷

本エリアは約100年前に皆伐された民有林だが、その後ブナが一斉更新し、ブナ林として自然再生している。平成8年以降に町有地として教育・研究目的の「黒松内町やすらぎの森」として公益目的に供されている。

サイト周辺の環境

南側に農地が広がり、北側は他の民有林に連なり、添別川左岸の丘陵地形に分布するブナの二次林である。東西方向に延びる沢はサイト東方向に流下し、添別川に接続する。隣地のミニビジターセンターから北斜面に延びる散策路は丘陵頂部で左右に分岐し、∞型のルートで周回できる。

アピールポイント

約100年前の大正12年に行われた天然記念物現地調査で、すでに大半の原生的なブナ林は伐採されていた。本ブナ林は100年間かけてブナ二次林が再生したことを体感する事のできる貴重な林分である。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

約100年前に皆伐があり、その後のブナの一斉更新によって本州のブナ林と変わらぬ種組成であることが確認されている区域である。伐採による自然攪乱があったにもかかわらず、人工林ではない北限域のブナ原生林が自然再生している稀有な事例であると言える。

【主な植生】

ブナを主としてアカイタヤなどの広葉樹が混交している。単木的にトドマツが生育しており、北海道の汎針広混交林の要素が僅かに含まれていると考えられ、北限のブナ林の特徴を表している。

【確認された主な動植物】

植物：ブナ、ホオノキ、アカイタヤ、ミズナラ、ハリギリ、ハウチワカエデ、カタクリ、サンリンソウ

鳥類：ヨタカ、オオジシギ、ミサゴ、ハチクマ、オオアカゲラ、クマゲラ、ハヤブサ、ホオアカ

【生態系サービス】

申請区域は黒松町内やすらぎの森条例にも制定されており、本条例は町民の心身を癒やすやすらぎの自然空間としての活用や、教育の場としての活用を目的としており、利用されている。



写真の撮影年月：2011年6月

写真の説明：



写真の撮影年月：

写真の説明：

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

本サイトでは定期的な鳥類調査が行われており、希少種も継続して確認されている。営巣に大径木を必要とする種も確認されていることから、本サイトのブナ林の様な成長した広葉樹は貴重な生息場所であることが示唆される。さらに、本サイト近傍の添別川には豊富な魚類資源があり、ミサゴにとって重要な採餌環境であることが示唆される。また、本町で行っている「いきモニ調査」では、植物の希少種も複数確認されている。

【確認された希少種】

希少種（植物）：カタクリ、サンリンソウ

希少種（鳥類）：ヨタカ、オオジシギ、ミサゴ、ハチクマ、オオタカ、オオアカゲラ
クマゲラ、ハヤブサ、ホオアカ



写真の撮影年月：2011年6月

写真の説明：

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <p>散策路の維持を目的として散策路沿いのササ狩りを毎年実施している。また、傾斜地に設置されている階段工などの維持管理を適宜実施する。林内植生等は現状維持を基本としているため、特に計画は策定していない。</p>	<p>【モニタリング対象】</p> <p>①毎木調査（樹種、位置、樹高、胸高直径、樹冠幅、生枝下高） ②群落リター量 ③ブナの着花 ④ブナ林冠葉の形態、養分、光合成特性 ⑤ブナのゲノム配列データ ⑥ブナ林冠葉のゲノム網羅的な遺伝子発現データ</p> <p>【モニタリング場所】</p> <p>添別ブナ林内、観測タワー</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>毎木の樹高と胸高直径、リター量（間隔：5～10年間） 光合成特性、遺伝子発現（間隔：未定）</p> <p>【実施時期及び頻度】</p> <p>毎木の樹高と胸高直径、リター量（間隔：5～10年間） 光合成特性、遺伝子発現（間隔：未定）</p> <p>【実施体制】</p> <p>北海道大学農学研究院の斎藤秀之講師を中心とした調査グループ</p>